

平成30年10月15日(月)

函谷関

函谷関(かんこくかん)は、中国河南省にあった関所。この関より西を関中といい、中原から入る上での交通の要衝にあり、歴史上多くの戦いが行われ、また故事が生まれた。

「函谷関」は中国の長安と洛陽の間、長安のある関中の地への入り口を扼する関所で王朝の死命を制する要衝として有名であり、『史記』における漢の劉邦と楚の項羽の攻防や孟嘗君の鶏鳴狗盗(けいめいくとう)の故事などで知られる。

「箱根八里」(はこねはちり)は、1901年(明治34年)に発行された「中学唱歌」に初出の唱歌であるが、その歌詞に函谷関が現れる。箱根の急峻な道について歌われた歌である。鳥居枕(とりいまこと)の作詞、瀧廉太郎の作曲による。

歌詞

1.

箱根の山は、天下の嶮(けん)
函谷関(かんこくかん)もものならず
萬丈(ばんじょう)の山、千仞(せんじん)の谷
前に聳(そび)え、後方(しりへ)にささふ
雲は山を巡り、霧は谷を閉ざす
昼猶闇(ひるなほくら)き杉の並木
羊腸(ようちょう)の小徑(しょうけい)は苔(こけ)滑らか
一夫關に当たるや、萬夫も開くなし
天下に旅する剛氣の武士(もののふ)
大刀腰に足駄(あしだ)がけ
八里の嶮根(いはね)踏みならず、
かくこそありしか、往時の武士

3年生の諸君。力をためて函谷関を越え、中原より関中に攻め込もう。